

〔園芸〕

ウリ類に対する着果ホルモン剤の処理効果について

岡野 剛建・小川 勉

(長崎県総合農林センター)

OKANO, K. and OGAWA, T.

The Effect of Growth Regulator Treatment for Fruit Setting of the *Cucumis melomelo* L. and *Citrus vulgaris* SCHRAD.

ウリ類の栽培は年々前進し、自然条件では低温期の早期着果と肥大が大変困難である。また反面高温期の着果も不安定である。

この試験ではBenzyladenine (以下B, A) の子房処理による、スイカ、露地メロンの着果状況について報告する。

1. スイカ (供試品種コマダ) B, A 2%, 1.5%, 0.8%, 0.4%, ナフタリン醋酸 (以下N, A, A) 100 ppm の処理を行なった結果、B, A 1.5%の処理効果が高く、1969年の試験では、無処理区の着果率が0%に対してB, A 1.5%区は92.8%、1970年の結果は無処理区20%に対してB, A 1.5%区は35.4%と高い効果を示した。またN, A, A区と比較しても各濃度ともB, A 処理区の方が高かった。

果実の肥大効果は認められず、1果平均重は処理区間の差がほとんどなかった。果形、肉質、糖度とも無処理区と大差なく、B, A 処理による障害は認められなかった。

2. 露地メロン (供試品種ライフ) 1968年夏季の試験では、B, A, 0.8% (子房噴霧)、0.1% (子房塗布) の処理では、B, A, 0.8% 区は 83.6%、0.1%区は94.4%、無処理 (人工交配のみ) 区は30.5%で、高いB, A, の処理効果を認めた。しかし噴霧、塗布むらがある場合、変形果、裂果がわずかに発生した。

1969年春季はB, A, 1.5%, 0.8%, 0.4%, N, A, A 100ppm (柱頭処理) の処理を行なった結果、着果率は前年同様B, A, 処理区は非常に高く1.5% (76.5%)、0.8%区 (50%)、0.4%区 (45.5%) の順で、無処理区 (人工交配のみ) の17.5%より高かった。

果実の肥大効果は開花後2週間は高く、早期の肥大効果が認められたが、その後無処理区との差が縮まり、成熟期には1果平均重がわずかに重い程度で

あった。果形、糖度、肉質はスイカ同様無処理区との差がなく、B, A, 処理による障害はなかった。

着果促進に高温期、低温期ともB, A, 1.5%, 0.8%の使用は実用性があると思われる。

3. 露地メロン (供試品種プリンス) B, A, 処理については、従来1~2の試験報告で着果促進効果が認められているが、1969年、1970年の2ケ年の試験結果では、前記報告より処理濃度が高いためか、着果促進効果、肥大効果とも認められなかった。今後の研究課題として、温度と処理濃度の関係の解明があげられる。

第1表 スイカの着果状況

処理	項目	処理数	着果数	着果率	無処理対比
B, A, 2.0%		81ヶ	25ヶ	30.9%	155
〃 1.5%		96	34	35.4*	177
〃 0.8%		71	13	18.3	92
N, A, A 100ppm		76	2	2.6	13
無処理		90	18	20.0	100

(注) \* 5%の有意差 (コマダ) 1970

第2表 露地メロンの着果状況—(1) ライフ

処理	項目	処理数	着果数	着果率	無処理対比
B, A, 1.5%		17ヶ	13ヶ	76.5%	437
〃 0.8%		42	21	50.0	286
〃 0.4%		22	10	45.0	260
N, A, A 100ppm		25	11	44.0	251
無処理		34	7	17.5	100

第3表 露地メロンの着果状況—(2) プリンス

処理	項目	処理数	着果数	着果率	無処理対比
B, A, 2.0%		151ヶ	86ヶ	43.0%	134
〃 1.5%		118	80	32.2	100
〃 0.8%		141	94	33.3	104
N, A, A 200ppm		139	82	41.0	128
無処理		106	72	32.1	100